

平成 29 年 8 月 10 日

平成 28 年度学校関係者評価委員会報告書

一般社団法人奈良県歯科医師会立奈良歯科衛生士専門学校
学校関係者評価委員会

一般社団法人奈良県歯科医師会立奈良歯科衛生士専門学校 学校関係者評価委員会は、平成 28 年度自己評価報告書に基づき、学校関係者評価を実施し、以下の通り報告いたします。

記

1 学校関係者評価委員

吉福 美香（一般社団法人奈良県歯科衛生士会 会長）
山本 佑佳（卒業生）
入部 克子（地域住民）
横井 理（奈良歯科衛生士専門学校 評議員会 副議長）
内藤 正知（奈良歯科衛生士専門学校 理事長）
伊藤美智代（奈良歯科衛生士専門学校 学校長）
畑下 芳史（奈良歯科衛生士専門学校 専務理事）
森 睦（奈良歯科衛生士専門学校 常務理事）
日高隆太郎（奈良歯科衛生士専門学校 理事）
熊本 憲之（奈良歯科衛生士専門学校 理事）
吉岡 秀樹（奈良歯科衛生士専門学校 理事）

（事務局）

井岡 美保（教務主任）
三田 礼子（事務係長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

（1）開催日：平成 29 年 7 月 13 日（木）11:00～12:00
開催場所：奈良歯科衛生士専門学校 会議室

3 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

I 重点目標について

急速な高齢化社会が進み、歯科医療を含めた医療現場では技術の高度化や疾病の多様化が進んでいるなか、歯は全身の健康の原点と言われ、一層重要視されている。歯科医療技術が進歩する臨床現場において常に目標を持ち、より専門的な技術・知識の取得に励むことが昨年度に引き続き重要である。

学校の目標として、これらの知識・技術力の向上に取り組むことを上げており、自己評価報告でも臨床現場でのニーズや業務内容の高度化に対応できるよう、企業と共同開発したシュミレーターを実習に取り入れるなど、より実践的な知識・技術力を身につける教育に取り組んでいることが分かる。平成28年度は、更に高齢者施設実習先の充実、障害者施設での実習先の充実をはかっている。

今後も業界等の人材ニーズに応じられるよう、情報収集に努めて企業と連携し、より実践的な教育活動を続けてほしい。

また、「医療人として人間性豊かな社会性を身につけることを目指す。」という目標から、学校創立時からのゆるぎない教育理念に基づき指導していることが評価できる。

法律の改正により、平成22年度から修業年限が3年制に移行した際に、より高い知識・技術力が身に付けられる教育課程を編成したが、近年の高齢化社会等、歯科医療現場も変化しているため企業等と意見交換を行い、情報収集に努めて適宜検討することが重要だと考える。

今後も引き続き、人の心の痛みがわかる豊かな人間性と社会性を備えもつ歯科衛生士を育成し、歯科医療現場に輩出することを望む。

II 各評価項目について

項目	評価
基準1 教育理念・目的・ 育成人間像	奈良県歯科医師会立の歯科衛生士養成校として、開校以来50年余に渡り、地域医療のため1,500人を超える歯科衛生士を育成・輩出していることから、学校一丸となって取り組んでいることが分かる。今後も基本方針は維持しながら、業界の人材ニーズに適合した歯科衛生士の育成を実現するため指導にあたっていただきたい。
基準2 学校運営	理事会・教員会等、学校運営に必要な組織を運営規程に定め、毎年度、評議員会で承認された事業計画・予算書に基づき適切に運営されていることが分かる。今後も引き続き設置者の奈良県歯科医師会と連携を図り、優秀な歯科衛生士の育成に励んでいただきたい。
基準3 教育活動	成績評価、単位認定を学則に明確に定め、指定規則に沿った教員を確保し適切な学生教育が行われていることが分かる。学生相談が多様化しているため教員の負担が増していると思われるので、負担軽減が課題である。 教育課程編成委員会が組織化されているが、教育課程の改善が十分に図れるよう、適宜見直しを行っていくことが課題である。 授業評価の結果を授業内容に反映できる体制を整備中であるが、次年度授業に反映出来るよう引き続き取り組んでいただきたい。 実習などは客観的評価が難しいものもあり、今後の課題である。学会発表など、積極的に参加していくことが大切である。

項 目	評 価
基準 4 学修成果	<p>独自の国家試験対策や就職ガイダンスによる、高い合格率や就職状況について評価できる。</p> <p>今後も優秀な講師を確保し、教育環境の拡充に努めていただきたい。</p> <p>更に一度一線を退いた卒業生がスムーズに職場復帰できるよう、衛生士会と協力し、関係機関に働きかけていきたい。</p>
基準 5 学生支援	<p>少人数教育と担任制により、学生一人一人に行き届いた指導を行っている。体調不良、成績不振者については早期に学生および保護者面談を行い退学率の低減に努めていることは評価できる。</p> <p>独自の奨学金制度「奈良県歯科医師会修学資金制度」にて、成績優秀な学生に対し経済的支援を行っていることは評価できる。</p> <p>SNSの急速な普及による様々なトラブルを未然に防ぐため、啓発リーフレットを用いた説明会を行っていることは評価できる。</p> <p>社会人入学者の学納金負担軽減のため、平成 28 年度から教育訓練給付制度の指定校となっているが、利用者が増えるよう制度内容について積極的に周知に努めていただきたい。</p> <p>健康管理面において従来のワクチン接種に加え、様々な抗体検査の充実も図っていることは評価できる。</p>
基準 6 教育環境	<p>教育設備の改善については、教員会・理事会で検討し、年次計画を立てて設備を購入するなど学生教育に支障が無いように努めていることが評価できる。</p> <p>昨年度課題としてとりあげた実習検査室のPC設備について、セキュリティ対策として Windows10 のPCに入れ替えることは事業計画どおり執行されており評価できる。</p> <p>基礎実習室の映像配信システムで口腔内カメラの映像やパノラマX線装置の画像を数台のモニターに無線配信できるよう平成 29 年度事業計画を執行することが課題である。</p> <p>年 2 回の消防設備点検と消防署の指導を仰いだ防災訓練を行い、適切と判断できる。更なる防災・安全管理に努めていただきたい。</p> <p>安全管理面においては、SNSの急速な普及に伴う様々なトラブルを未然に防ぐため、積極的な取り組みが見受けられる。</p>
基準 7 学生の募集 と受入れ	<p>奈良県私学専修学校連合会主催の進学説明会で高校進路指導担当教諭に情報提供を行う他、高校でのガイダンス、役員による高校訪問や学校見学会で体験実習を行い、歯科衛生士の業務の周知と学生募集に積極的に努めていることが評価できる。</p> <p>また、入学選考についても明確な選考基準を設け、遂行されている。</p> <p>県民便り等の公共の紙媒体だけでなくHPや駅看板も活用し、様々な媒体で情報社会に対応した積極的な学生募集を行っている。</p> <p>県外養成機関への進学希望者をいかに本校志望に転換してもらえるかが課題である。</p>
基準 8 財 務	<p>収入が支出を上回り、運営資金を積立てる等、中長期的な安定を見据えた財務運営が行われているが、人件費や消費税率の引き上げ等による経費増加に低金利預金の運用だけで対応出来ないと思われるので学納金の増額が実施されている。</p> <p>昨年度平成 27 年度決算よりHPで閲覧出来るよう要望した内容については改善されていることは評価できる。</p>

基準9 法令等の遵守	関係法令を遵守し、適正な学校運営がされており、今後も継続していくことが望まれる。 自己評価を行い、学校関係者評価の実施体制を整備していることは評価できる。評価結果についてもHPで情報公開されている点は評価できる。
基準10 社会貢献 ・地域貢献	奈良県歯科医師会や奈良市歯科医師会と連携し、県内の幼児にフッ化物塗布や歯磨き指導を行う等、社会貢献・地域貢献に努めていることは評価できる。 今後も引き続き、公益法人である奈良県歯科医師会立の学校として地域社会に貢献していただきたい。
その他 国際交流	修学旅行先の台湾で現地大学と交流会を行い、歯科事情や両国の歯科を取り巻く環境について学び、国際交流に積極的に取り組んだことは評価できる。見聞を広めるために今後も積極的に取り組んでいただきたいが、海外の治安事情も懸念されるため学生の希望があれば、治安を第一に考えて検討いただきたい。

Ⅲ 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果を基に理事会・教員会等で今後の課題と対策を検討している。それにより、学生が関係業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を享受できるよう学校運営の改善を図り、実践的かつ専門的な職業教育に反映している。

項目	評価
基準3 教育活動	教員の負担軽減を図るため、教員の増員と教育環境の拡充を教員会・理事会で検討して、教員の補充を行った。 授業評価を授業内容へフィードバック出来るよう、講師意見交換会等で提供し、シラバス等に反映していく体制を整備中である。
基準4 学修成果	教員会で検討の上、国家試験対策について、直前対策講義と模擬試験の実施計画を作成した。
基準5 学生支援	平成28年度から教育訓練給付制度の指定校として、社会人入学者の学納金負担軽減を図っている。制度内容についてHPや学校案内に掲載し、積極的に周知し、利用者の増加に取り組んでいる。 退学兆候のある成績不良者に対して、教員会で検討を行い、保護者と連携をとり、個別補講や面談の回数を増やし退学の軽減を図っている。
基準6 教育環境	基礎実習室の映像配信システムで口腔内カメラの映像やパノラマX線装置の画像を数台のモニターに無線配信できるよう事業計画・予算に組み込み、評議員会で承認を得た。平成29年度内に執行出来るよう納入業者と綿密に打ち合わせを行った。 実習機器の故障を未然に防ぐため、点検回数を増やし、早期に部品交換を行っている。
基準7 学生の募集 と受入れ	県民だよりなどの公的な紙媒体やWEB媒体だけでなく、公共交通機関である大和西大寺駅に看板を設け、学生募集に積極的に取り組んだ。 適宜、理事会で広報媒体の見直しを検討している。

<p>基準8 財 務</p>	<p>人件費増や消費税率の引き上げ等による経費増加に対応するため、学納金の引き上げを理事会で検討し、評議員会で承認を得て、29年度入学生から適用している。29年度より増加する学納金により、中長期的な財務計画を立て財務基盤が安定するよう運営していく予定である。</p> <p>財務情報を平成27年度会計決算よりHPで公開をおこなった。</p>
<p>基準 10 社会貢献 ・地域貢献</p>	<p>公益法人である奈良県歯科医師会や奈良市歯科医師会と連携し、更に地域社会に貢献できるよう、口腔保健の啓発に関する活動を続けていく予定である。</p>
<p>その他 国際交流</p>	<p>修学旅行先の台湾で現地大学と学生同士の交流を行い、歯科医療状況や技術の情報交換等で得た成果をフィードバック出来るよう、教員会で検討している。今後も積極的に国際交流に取り組む予定である。</p>